

第16号
平成18年
11月13日

すまいるたうん



発行元
東京新聞南千住専売所
Tel.3803-1781
発行責任者
鬼塚 佳代子
Tel.090-2657-0300

粋を売る酉の市、 熊手屋 いがらし

「粋で売り、粋で買ってもらう。」
(有)大勇工業所の社長佐藤勇さん(62歳)
の本職は大工さん。

西の市では奥さんの実家の5代続く
おかめや「いがらし」の熊手屋さん
になります。

一の酉の始まる1週間前から売店とな
る小屋がけの準備に入ります。出店する
場所は、最初から決まっております、場所が
変わることはありません。

午前0時の福運太鼓の「どーん」とい
う合図の音で熊手の販売は始まり、翌日
の午後24時の福運太鼓の音で終わります
三の酉が終わった翌朝5時、6時には片
付けられます。

「いがらし」は3店、おとり様に出店し
て、家族総出で参加です。

勇さんは、浅草鷲(おおとり)神社
(業者の間ではわし神社と呼ばれていま
す。)の手前、妙蓮様(寺)の社務所の
左横から2軒目で2号店の店長をしてい
ます。この道30年の売り子です。

150軒近くの熊手屋さんが軒を並べてい
ますが、それぞれ特色のある熊手を売っ
ています。

「いがらし」の熊手の特徴は、しめ・

青物・ザル・小判・ひらの5種類の熊手
の中央に取り付けられているおかめのお
面です。お面は、職人の手で一筆一筆、
手書きで丹念に描かれています。

福を呼ぶおかめ、いがらしのおかめを
目当てに買いにくる常連のお客さんのな
かには、去年の熊手からおかめだけを
ずして、家や店に飾って福がたくさんた
まるのを楽しみにしている方もいらっしや
います。

おかめのお面の200枚に1枚は元福
といつて嫁が髪を振り乱して働くお面が
あり、これがより一層の福をもたらして
くれるそうです。

店には金庫番が2人と売り子が4人位
おり、鉢巻・どんぶり(腹掛け)・パツ
チ・セツタにおかめや「いがらし」の名
前入りの半天という粋な出で立ちで店に
立ちます。

自分の店の前のお客様には、声をかけ
ますが、一歩隣の店の前にお客様の足が
入ったら声はかけない暗黙の了解があり
ます。

お客様のの中には、親子3代で大磯から
来る方や、横浜のBMW営業所の方など
があり、年1回の再会とイベントを楽し
みにしております。一の酉では、沖縄、
秋田の方も買いにいらつしやいました。
お客さんは店目当てでくるのではなく、
売り子さんに目当てで来ます。

売り子さんには、固定客がついており、
いなければそのまま帰ってしまうため、
売り子さんはトイレに立つ暇もありません。

「お客さんとのあうんの呼吸での会話を
いかに粋にこなすか、お客さんとかけひ
きを楽しみんだよ。」と勇さん。
熊手は1〜3万位がよく売れます。度胸
が座つてないと、なかなか大きな物は売
れません。

熊手はキワモノ。値段はあつてないよ
うなものです。お客様との値段交渉が成
立すると三本ペ。値切つて買った分、お
客様はご祝儀としておいていかれ、ご利
益をもらいます。

浅草酉の市、一の酉16日、三の酉28日、
ぜひお出かけ下さい。
勇さんと目と目があつたら、ぜひ、
かけひきを楽しんで熊手を買って三本ペ。
家内安全、商売繁盛、よいお年を!!

18年
祭 プレゼント
いがらしで熊手を購入されたお客様に(数限定)
来年の干支小物(根付)を差し上げます
いがらし

浅草いがらし
足立区関原2-47-13
Tel.3886-8685
torinoichi@nifty.com
(有)大勇工業所
Tel.3891-8062

あなたの熊手にいがらしのおかめは、ついていますか？

老舗「いがらし」が描くおかめの面は、 いがらしで熊手購入されたからには来年のえとの根付けが
プレゼント

浅